

2019年度特別支援教育に関する実践研究充実事業
 (新学習指導要領に向けた実践研究)
 成果報告書 (概要)

受託団体名
大阪府教育庁

1 指定校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名 (ふりがなを付すこと)
大阪府	特別支援学校	知的障がい	<small>おおさかふりついくのしえんがっこう</small> 大阪府立生野支援学校

2. 事業の実績

(1) 事業の実施日程

実施時期	実施内容	評価事項
平成31年4月 令和2年3月	授業改善 (毎週月曜日5限目)	授業アドバイザーによる 助言等
平成31年4月～ 令和2年3月	教育課程改編 ① 5月14日 ② 6月11日 ③ 7月11日 ④ 8月30日 ⑤ 9月12日 ⑥ 10月9日 ⑦ 11月14日 ⑧ 12月23日 ⑨ 1月29日	教科の年間指導計画 学期の2期制、シラバス
令和元年7月5日	教育課程研修会	研修講師による助言
令和元年7月～ 令和2年2月	報告会の準備 (上記③～⑨と2月14日)	成果報告書様式1-2 様式2-2 様式2-3
令和2年 2月21日	研究成果のまとめと報告 報告冊子作成	
令和2年3月23 日	次年度の取り組み内容の検討・調整	

(2) 研究課題

外部人材を活用し、キャリア教育の観点を含んだ教育課程の改善に向けて検討を行い、小・中・高一貫したキャリア教育を充実させる。

(3) 研究の概要

a 授業改善アドバイザーによる授業改善

b 全校教育課程の見直し

a 授業改善アドバイザーは、月曜日～水曜日（9：30～16：15）に授業参観と教員への指導助言を行う。指導助言から小学部・中学部・高等部の各教科・領域にキャリア教育の観点を取り入れた授業内容の充実を図る。特にH29年度からスタートした職業コースの授業に重点を置き、印刷作業や清掃作業を実施する教員の意識改革や授業の内容・方法についてのアドバイスを参考に、大阪府立生野支援学校のキャリア教育を充実していく。

また、学校と企業・福祉等、関係諸機関との連携を図ることができるよう調整する。

b 本校は、授業改善アドバイザーを含め関西国際大学花熊教授の協力を得て、教育課程研修を行い、各学部や各学年において卒業後の生活を見通した「育てたい力」に視点を置いた教育課程の改善を行う。そして、個々のニーズに応じた授業改善、指導支援を行い、卒業後の自立と社会参加につなげる。

また、個々の児童及び生徒の発達段階や進路を踏まえ、「何ができるのか」「何を学ぶのか」「何が身に付いたのか」という視点に基づき年間指導計画（シラバス）の見直しを行い、教員が児童生徒の自立と社会参加へ向け生活年齢、発達年齢に配慮した指導内容、指導方法を確立する。

(4) 研究の成果

a 授業改善アドバイザーの指導助言を得ながら、昨年度実施した高齢者施設の2か所に加えて今年度の新たな清掃場所として、巽東小学校と生野区役所にご協力をいただいた。巽東小学校では、理科室を含む3教室を清掃させてもらい、教頭先生から感謝されることで自尊感情が高まった。生野区役所の実習でも、みおつくしの鐘と会議室の2か所の清掃を行った。ここでも感謝してもらった機会になったのに加え、生野区役所のtwitterに生徒たちの活動を掲載していただいた。生徒たちも自分たちの活動の様子がインターネットに上がっているのがうれしかったようで勤労観の育成につながった。また、外部との連携も昨年以上に進み、福祉事業所連合にはビジネスマナー研修、地域の連合会会長には喫茶講習をしていただいた。教員と同じ内容でご指導くださり、生徒にとっても理解しやすかったようである。

平成29年度から令和元年度までの就職希望率と就職率は12%→13%→16%とわずかだが上昇した。教職員の学校評価アンケートにおいても、「教育課程改善事業を受けて、高等部コース制の取組みが、より充実したものになった。」との質問に肯定的評価が77.7%を占めるなど一定の理解を得られたと感じている。しかし「学部間の連携がより深くなった」との項目は肯定的評価が70%、否定的評価も20.3%となかなか浸透しきらず、課題が残った。

b 今年度個別の指導計画の評価を3学期制から2期制に移行した。学校教育自己診断の保護者アンケートの質問項目である「学習の記録（個別の指導計画）は子どもの学習の達成度が適切に評価されている」という問いに対して、平成30年度は92.9%、令和元年度は94.5%と1.6%向上したためこちらも多くの保護者の理解が得られていると考える。

(5) 課題と今後の方策

- ① コース制の取組みを中心として、支援学校に対する地域の理解が上がってきているように感じている。初めは支援学校の生徒にはサポートが必要というイメージが強く、相手側から「清掃なんてできるの?」と言われることも多かった。しかし、清掃の回数を重ねることで生徒たちの頑張りが認められ、利用者がいる居室の清掃をさせてもらえるようになったり、小学校でも児童がいる教室の清掃を行ったりと活動させてもらえる場が少しずつ広がってきている。今後もいろいろな地域の方の協力を得ながら、児童生徒の成長につなげられるよう積極的に関わっていきたい。
- ② 教育課程に関しては、この3年間高等部の授業改善に重点を置いて取り組んできた。一番の課題であった高等部コース制の骨組みができたため、小学部段階で何を教えるか、中学部段階で何を教えるかの検討を行い、今後は小学部から高等部までのカリキュラムを系統立てる必要がある。また、カリキュラムマネジメントやPDCAサイクルの観点から考えるとcheckに課題があるため、1つの授業、1週間の授業、学期間の授業、1年間の授業でその都度適切に振り返りを行いながら今後も授業改善に努めたい。
- ③ キャリア教育マトリクス表を作成し、教科の年間指導計画に位置付けたことで教員への意識づけができつつあるが、まだ効果的なものと呼べるには至っていない。今後、より使いやすく効果的なものになるように工夫、改善が必要である。

2019年度特別支援教育に関する実践研究充実事業
 (新学習指導要領に向けた実践研究)
 成果報告書 (概要)

受託団体名
大阪府教育庁

1 指定校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名 (ふりがなを付すこと)
大阪府	支援学校	知的障がい	おおさかふりつひがしよどがわしえんがっこう 大阪府立東淀川支援学校

2. 事業の実績

(1) 事業の実施日程

実施時期	実施内容	評価事項
平成 31 年 4 月 1 日	実践研究事業会議①	
令和元年 5 月 1 日	実践研究事業会議②	
5 月 17 日	全体研修会①「本事業について」	114 名
5 月 30 日	授業研究① (各部 3 名)	
6 月 12 日		
6 月 18 日		
7 月 1 日		
7 月 2 日		
7 月 3 日		
7 月 5 日		
7 月 9 日		
7 月 19 日		
6 月 10 日	実践研究事業会議③	
7 月 18 日	全体研修会②「キャリア教育について」	114 名
8 月 26 日	全体研修会③「学習科学に基づく教育活動」 (講師：滝川国芳教授)	114 名
9 月 25 日	学部別研修会①	
10 月 8 日		
9 月 12 日	実践研究事業会議④	
10 月 8 日	授業研究② (各部 3 名)	
10 月 24 日		

10月31日		
11月5日		
11月6日		
11月15日		
11月27日		
12月9日		
10月28日	実践研究事業会議⑤	
12月17日	学部別研修会②	
12月20日		
12月16日	実践研究事業会議⑥	
令和2年1月27日	実践研究事業会議⑦	
2月18日	最終報告会	115名
3月23日	実践研究事業会議⑦	
3月30日	最終報告冊子完成	

(2) 研究課題

- ・キャリア教育の視点で小学部、中学部、高等部一貫した教育課程の改善を図る。
- ・知的障がい特別支援学校における「主体的・対話的で深い学び」のある授業をめざした授業改善を図る。

(3) 研究の概要

キャリア教育の視点で教育課程を見直すとともに、外部人材を活用し主体的・対話的で深い学びのある授業改善に取り組む。

- 1 キャリア教育の視点で小中高一貫した教育課程見直しの検討を進め、次期学習指導要領の円滑な実施につなげる。
- 2 「東淀川支援学校キャリア教育マトリックス（以下「マトリックス）」と、教科別や各教科等を合わせた指導内容との関係の整理を行うため、年間指導計画（シラバス）の様式を変更し、单元ごとにマトリックスのどの観点と関連しているかを示す。
- 3 授業改善を図る体制を整え、次期学習指導要領の趣旨を踏まえ、主体的・対話的で深い学びのある授業改善について研究する。主体的・対話的で深い学びのある授業について本校では「自ら考え行動する力」「変化に対応できる力」「コミュニケーション力」の「3つの力」の観点から研究する。
- 4 外部人材を授業改善アドバイザーとして週3日配置し、指導方法や学習環境、教材作成等に関する助言を受けて授業改善を図る。
- 5 全教員が教育課程改善に向けて共通のベースを持てるよう、次期学習指導要領等に関わる全体研修を実施する。

- 6 高等部の職業コースの授業や校内実習等を児童生徒が学部を越えて見学できたり授業に参加したりする機会を設定したり、中学部でも職場体験実習や進路先の見学を行うなど、児童生徒が具体的な自分の将来像をイメージできるようにする。
- 7 研究会を実施するほか、ホームページに掲載し、研究の成果を府立支援学校全体で共有できるようにする。

(4) 研究の成果

- 1 個々によって異なるキャリア発達をどのように積み上げていくか、本校のマトリックスやキャリア発達段階表の活用を図った。
- 2 府立支援学校共通の「指導と評価の年間計画」(シラバス)に本校独自でマトリックスの観点を追加しキャリア教育を意識した年間計画を作成した。
- 3 研究テーマに沿って各学部3人が「授業シート」を作成し、それぞれ授業研究を2回ずつ行った。今の学びが卒業後を含む将来にどのようにつながっていくのか・つなげるのかについても考えるようにした。教員全員が授業を参観し「参観シート」に評価を記入し、学部研修会での意見交換により、様々な授業の手立てや工夫を知り担当以外の授業での児童生徒の様子を把握することで自身の授業に活かせる手立てや工夫が増え、授業力の向上を図ることができた。
- 4 授業改善アドバイザーより授業の基本的構成要素に基づく指導助言や高等部職業コースの授業を中心に実習を伴う学習での環境づくりについての技術指導や卒業後の就労先での対人関係について指導を受けた。
- 5 全体研修(3回)
次期学習指導要領に向けた実践研究事業について
キャリア教育について
講演「学習科学に基づく教育活動～新たな学びを実現する授業のための学習環境デザイン～」
- 6 高等部の生徒が小学部向けに行事を企画・実施したり、児童が使いやすい椅子を作成したり、中学部生徒が高等部の校内実習を参観したりするなど学部間の活動を行った。児童生徒が具体的な将来像を実感し相手に認められて喜ばれることでキャリア発達を促し自己肯定感を育む体験となった。
- 7 校内で最終報告会を行い、成果と課題を共有した。また、冊子にして全府立支援学校へ配付するとともにホームページに研究成果を掲載して、成果を発信する。

(5) 課題と今後の方策

主体的・対話的で深い学びについて「自ら考え行動する力」「変化に対応できる力」「コミュニケーション力」の「3つの力」の観点から「授業シート」「参観シート」を活用して授業研究を行い、めざす児童生徒の姿とそのための工夫や手立てについて研究協議をすることで、どの授業にも共通することがらを「3つの力」それぞれに整理し全体で共通理解することができた。互いの授業参観や意見交換、主体的・対話的で深い学びに関わる目標設定と指導内容、目標を達成するための工夫や手立てを明らかにする研究を継続していきたいと考える。

また、キャリア教育の視点から授業改善を考えたことで本校が開校以来教育課程の柱としてきたキャリア教育、キャリア発達を促す指導について学校全体で見直すことができた。本校では、キャリア教育

を児童生徒がそれぞれの役割を果たし他者から認められたり褒められたりして喜びを得て次への意欲を高める活動としている。日々の授業をはじめ様々な指導場面にこの活動を位置づけるように配慮することが大切であり、このような経験を積み重ねることができるように教育課程を見直すことが今後の方向性と考える。そのためには、本校独自のマトリックス、キャリア発達段階表を日常的に活用できるように計画的に研究する必要がある。